

ワクチンの「同時接種」がお勧めです。

2種類以上の予防接種を同時に行う「同時接種」は、医師が必要と認めた場合に行う事ができると厚労省が通達を出しています。**現実にワクチンの数が多い諸外国においては「同時接種」が一般的に行われています。**

特に乳児においては、三種混合（DPT）、インフルエンザ菌b型（ヒブ）、肺炎球菌などそれぞれ複数回の接種が必要です。予防接種後進国と言われてきた日本においても、最近になって徐々に欧米並みのワクチン数へと増えてきています。「ワクチンで予防できる病気」から子ども達を確実に守るためには、必要なワクチンを適切な時期に適当な回数を接種することが必要です。そのためには「**同時接種**」をより一般的な医療行為として行っていく必要があると日本小児科学会が推奨しています。



親御さんの中には、新聞報道でヒブと肺炎球菌ワクチンを受けた後死亡した例を心配されている方が少なからずおられると思います。**しかし、ワクチンの専門家会議では、因果関係を否定しています。私達小児科医は、死亡例は「乳児突然死症候群」が紛れ込んでいると理解しております。**

日本では年間約150人の乳児がハッキリした原因が分からずに死亡しています。うつぶせ寝とか親の喫煙とかRSウイルス感染とか様々な要因が考えられています。予防接種が多い月齢時期と突然死が起こる乳児期がダブっているのです。

新聞では死亡前日にヒブと肺炎球菌の同時接種をしていたと報道されていましたが、前日にDPTやBCGなど従来の予防接種を

受けていた例もあると思います。それらは報道されずにヒブ・肺炎球菌ワクチンの同時接種だけが強調されていました。いかにもその同時接種が死亡原因と誤解されるような記事だったと思います。

「**同時接種**」は、世界中で20年以上にわたって実施されていますが問題は起こっておりません。多くの臨床試験で、免疫獲得については単独接種と差がないことが確認されています。「同時接種」はWHO拡大予防接種計画で実施され、欧米先進国、取分け訴訟の国・米国においても通常の方法として実施されております。

日本小児科学会は同時接種の利点として下記の事項を記載しています。

- ① ワクチンの接種率が向上する。
- ② 子ども達がワクチンで予防される病気から早期に守られる。
- ③ 保護者の経済的、時間的負担が軽減される。
- ④ 医療者の時間的負担が軽減する。

来年度からDPT+ポリオ不活化ワクチン（IPV）の四種混合ワクチンが始まり、従来の経口ポリオ生ワクチンが無くなるでしょう。また今年の秋には急性胃腸炎の原因であるロタウイルス生ワクチン（経口）も自費ですが発売予定です。

結論として

「**同時接種**」をしていかなければ適切な時期に予防接種ができません。

「**同時接種**」をしていかなければ接種希望者の予約時間枠を確保できません。

私どもは、子ども達にとっても医療側にとっても「同時接種」がぜひ必要と思ひ、実施しております。今回「日本小児科学会の予防接種の同時接種に対する考え方」を参考にしました。（たまなは）